

VOL.7 木づかいは 森への気づかい!

木材は、木を伐り出した後、山に再び植えて育てることで、くり返し生産できる優れた資源です。

県内の人工林をみると、約半分が木材として利用できる大きさに育ってきています。しかし、若い木はとても少なく、間伐などの森の手入れも十分ではありません。このままでは、今後、木材を使おう

とした時に、必要な大きさの木が足りなくなってしまう。

今、私たちにできることは、森の将来を気づかい、木材を積極的に使うこと。木材がたくさん売れて、林業が盛んになれば、「伐って・使って・植えて・育てる」という林業のサイクルがつながり、森林を守り続けることができるのです。



岡山県マスコット ももっち

森の立木1本のうち、柱や板など製品となる部分は約3割に過ぎません。伐採時に木の先端や枝などが山に残され、製材時にも切れ端が出るからです。しかし近年、これらも燃料や新たな素材として、余すところなく、有効に使えるようになってきました。

おかやま森づくり県民税は、岡山の森林を守り育てるために活用されています。

おかやま森づくり県民税

検索

岡山県農林水産部林政課